

科目名	沖縄のケアリング文化			担当教員：大城凌子・島田友子・金城祥教他	
科目名(英語)	Community Care II				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
1	1	後期	2~3	看研13(大城) 非常勤講師控室	月曜日・木曜日7限 講義前後30分

1. 授業の概要

沖縄の地理的・歴史的背景を踏まえ、沖縄の文化として脈々と受け継がれてきたケアリングの在り様を探究し、沖縄の生活や文化に根ざしたケアリングの要素を、多角的、学際的側面から捉えることを試みる。

2. 到達目標

- 1) 沖縄の人々の生活文化に根ざしたケアリングの現象を多角的に検討する
- 2) 沖縄の文化とケアリングに関する事例を分析し、沖縄のケアリング文化の要素を検討する
- 3) 沖縄のケアリング文化を活かした看護実践と今後の展望について自らの意見をまとめることが出来る。

3. 授業の計画と内容

第1週	ガイダンス	沖縄の文化とケアリングに関する研究の動向	(大城凌子)
第2週		沖縄の年中行事とケアリング	(大城凌子)
第3週		沖縄の産育習俗とケアリング	(島田友子)
第4週		沖縄の人々の世界観とケアリング	(金城祥教)
第5週		沖縄における看護教育と民族文化	(金城祥教)
第6週		沖縄の文化に根ざす看護研究の展望	(宇座美代子)
第7週		沖縄のケアリング文化のまとめ	(大城凌子)

4. テキスト・参考文献：

5. 準備学習： 毎回、課題を課すので準備してくること。

6. 成績評価の方法：

- ・授業への参画(討議 演習への積極的参加, 予習, 問題発見, プレゼンテーション) 50点
 - ・レポート(この科目を学んで, 学生自身の研究や今後の看護実践にどう生かせるかをまとめる) 50点
- 合 計 100点満点

7. 履修の条件：特になし

8. その他：

科目名	看護教育学			担当教員：清水 かおり	
科目名(英語)	Nursing Education				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1		2~3	看研 6 (清水)	月曜日・木曜日 6限

1. 授業の概要：
 教育学、および看護教育学の理論を学習し、看護基礎・卒後教育課程、あるいは継続教育に携わる看護職者が教育的機能を果たすために必要な基本的知識・技術を修得し、教育・実践領域において系統的な教育活動を展開できる能力を養う。

2. 到達目標：
 1) わが国における看護基礎教育の歴史的変遷、教育制度、教育課程について理解する。
 2) 今日の看護教育の現状を分析・考察し、問題点や課題について検討する。
 3) 看護職への教育のあり方について、教育の基本的な考え方や構造について理解する。
 4) 教育活動を効果的に展開するために必要な基本的な知識を、教育学の関連分野からも学ぶ。
 5) 自身の教育観、指導観をふり返り、看護学生ならびに看護職に対する教育的な関わりや環境づくりを含む看護教育方法に関する知識や理論・技術を学習する。
 6) 学習者の動機づけを高め、自己教育力を育成することのできる看護教育方法・評価について理解する。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	コースガイダンス、看護教育学とは何か	(清水 かおり)
第 2 週	教育学、教師教育学	(嘉納 英明)
第 3 週	専門職としての看護 専門職とは何か、実践の学問としての看護学	(清水 かおり)
第 4~5 週	看護教育制度 看護教育制度の歴史的変遷、看護教育制度の現状、准看護師問題	(清水 かおり)
第 6~7 週	看護学教育の基盤 アイデンティティ、クリティカルシンキング、リフレクション、キャリアマネジメント	(清水 かおり)
第 8 週	カリキュラム カリキュラム開発、カリキュラムデザイン、カリキュラム評価	(清水 かおり)
第 9~10 週	学習理論と学習方法 学習理論、学習方法、成人教育技法を用いた継続教育の方法論	()
第 11~12 週	臨地実習における教育と学習 教育的ケアリングモデル・経験型実習教育、看護学生が直面しやすい問題：臨地実習を通して	()
第 13 週	教育評価 教育評価とは何か、教育評価の考え方、看護学教育での評価の実際	(清水 かおり)
第 14 週	外国における看護学教育 米国における看護学教育、英国における看護学教育、中国における看護学教育	(清水 かおり)
第 15 週	新しい看護継続教育への提言	(清水 かおり)

4. テキスト： グレッグ美鈴、池西悦子編集 (2009) 「看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う」南江堂.

5. 準備学習：事前に提示された学習課題に取り組み授業に参加すること。事前に該当テキストおよび配布された資料を読みこみ授業に臨むこと。

6. 成績評価の方法：
 ・活動状況 60 点 (評価視点：授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力、プレゼンテーションの適切さ)
 ・レポートの内容 40 点 (評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、言語表現の適切さ、文献活用の適切さ)
 ・合計 100 点満点

7. 履修の条件：特になし

科目名	看護倫理学			担当教員：八代利香（小西清美）	
科目名（英語）	Nursing Ethics				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
1	1	後期	2～3	看研7	

1. 授業の概要：

看護における倫理的問題を解決できる能力を養うために、看護専門職に必要な看護倫理の基礎的知識と倫理的思考方法について事例を通して学ぶ。

2. 到達目標：

- 1) 看護倫理に関する重要な用語や概念を理解する。
- 2) 倫理的意思決定のプロセスを理解する。
- 3) 倫理的問題に関する感受性を高め、看護専門職としての責任と役割を理解する。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 ガイダンス
- 第 2 週 看護専門職の責任と倫理
- 第 3 週 倫理的ジレンマと対処
- 第 4 週 看護倫理のアプローチ
- 第 5 週 倫理的意思決定モデル
- 第 6 週 倫理的思考方法—事例演習（1）
- 第 7 週 倫理的思考方法—事例演習（2）
- 第 8 週 病院における倫理の実際

4. テキスト：

小西恵美子編：看護倫理 よい看護・よい看護師への道しるべ、南江堂

5. 準備学習：

6. 成績評価の方法：

- 1) レポート課題：70 点
- 2) 受講態度：30 点

7. 履修の条件： 特になし

8. その他：

科目番号	科目名	看護管理学		担当教員：横川裕美子 他	
看 276	科目名（英語）	Nursing Administration			
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2～3	横川 研究棟 403 鈴木 看研 17 清水 看研 6	授業時に提示する

1. 授業の概要

保健看護サービスシステムの現状および看護職が直面している課題を把握し、現場の変革を推進するために必要な体系的知識・技術を有効に活用できる能力を養う。

2. 到達目標：

- 1) 看護管理の基本的な知識・技術を修得し、現状と課題について説明できる
- 2) 看護の現場の変革を推進するために、課題と解決策について意見を述べることができる

3. 授業の計画と内容

第1週	オリエンテーション、看護サービスの現状と看護管理の動向	(横川裕美子)
第2週	医療チームにおけるリーダーシップ・メンバーシップ	(横川裕美子)
第3週	医療コミュニケーションとマネジメント	(横川裕美子)
第4週	医療と安全管理に対する社会的ニーズ	(横川裕美子)
第5週	医療安全と看護①（看護職の健康と医療安全の関連性）	(名城一枝)
第6週	医療安全と看護②（医療安全と暴力）	(鈴木啓子)
第7週	女性の看護と看護管理	(島田友子)
第8週	金融機関からみた病院経営	(渡真利晋)
第9週	病院のトップマネジメントの実際	(別府千恵)
第10週	看護管理におけるコンピテンシーモデルの活用	(別府千恵)
第11週	新人看護師のストレスに関する研究①	(荒木登茂子)
第12週	新人看護師のストレスに関する研究②	(荒木登茂子)
第13週	看護管理に関する研究	(清水かおり)
第14週	キャリア開発と看護管理	(清水かおり)
第15週	今後の課題	(横川裕美子)

4. テキスト特に指定しない 参考文献：授業の内容によって随時提示する

5. 準備学習：

6. 成績評価の方法：

- ・活動状況 50点（授業への参加度，問題発見および解決への努力，プレゼンテーションの適切性）
- ・レポートの内容（テーマとの整合性，論理的な文章構成，言語表現の適切性，文献活用の適切性）
- ・合計 100点満点

7. 履修の条件：なし

8. その他：オムニバス方式での授業である。授業日の詳細は授業時に説明する。

科目名	コンサルテーション論			担当教員： 宇佐美 しおり・鈴木 啓子	
科目名(英語)	Consultation				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2~3	看護学科事務室 (非常勤講師控室)	授業の前後 30 分ずつ

1. 授業の概要

保健医療チームの中でのコンサルテーションについて、する側と受ける側から理解できるように、理論と具体的な事例を通して方法論を学ぶ。また、コンサルテーションを受ける看護師としての自己研鑽のあり方を学ぶ。

2. 到達目標

- ・コンサルテーションの方法について理解できる。
- ・看護実践にとってのコンサルテーションの意義について理解することができる。

3. 授業の計画と内容

- | | |
|--------|--|
| 第 1 週 | コンサルテーションの定義およびその歴史 (鈴木) |
| 第 2 週 | コンサルテーションのタイプ (鈴木) |
| 第 3 週 | コンサルテーションの 実践 モデル (宇佐美) |
| 第 4 週 | コンサルテーションのプロセス (宇佐美) |
| 第 5 週 | コンサルタントの関係 (宇佐美) |
| 第 6 週 | ケース・コンサルテーションとコンサルティ中心のケース・コンサルテーション (宇佐美) |
| 第 7 週 | 管理に関するコンサルテーション (宇佐美) |
| 第 8 週 | 組織へのコンサルテーション (宇佐美) |
| 第 9 週 | グループ・コンサルテーション (宇佐美) |
| 第 10 週 | 倫理的問題に対するコンサルテーション (宇佐美) |
| 第 11 週 | コンサルテーションの評価 (宇佐美) |
| 第 12 週 | コンサルテーションと他の治療との違い (宇佐美) |
| 第 13 週 | 演習 (1) (宇佐美) |
| 第 14 週 | 演習 (2) (宇佐美) |
| 第 15 週 | まとめ (鈴木) |

4. テキスト・参考文献

テキスト：

- ① G.Lippitt & R.Lippitt: The Consulting Process in Action, Second Edition, Pfeiffer, 1986
- ② 宇佐美しおり・野末聖香(2009)：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法，(社)日本看護協会出版会

5. 準備学習

レポート課題の提出

6. 成績評価の方法

レポート(状況の正確な記述と分析力，課題設定・アセスメントの適切さと介入方法の適切さ) 20 点
講義・演習への参画度(ロールプレイなどでのコミットメント，プレゼンテーションの適切さ) 80 点
合計 100 点で評価する

7. 履修の条件

ディスカッション形式の授業を展開するため，各自で問題事例をまとめ，レポートしておくこと。

8. その他

特になし

科目名	ヘルスプロモーション論			担当教員：高瀬 幸一	
科目名(英語)	Health Promotion				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2~3	研 203 (高瀬)	授業の前後 30 分ずつ 火曜 3, 4 限 授業の前後 30 分ずつ

1. 授業の概要：ヘルスプロモーション・ウェルネス理念の起こりと歴史的背景，健康観についての歴史的変遷，健康政策への活用と評価の視点を講じ，ヘルスプロモーション・ウェルネス理念を理解した健康政策立案への基本的能力を習得する。さらに，運動生理学の観点から生活習慣病予防の具体的な知見や方法についても探究する。これらの基礎理論を用いて実際の看護の場におけるヘルスプロモーションを探究する。

2. 到達目標：

- (1) ヘルスプロモーション・ウェルネス理念について理解することができる。
- (2) 健康観の歴史的変遷について理解することができる。
- (3) 諸外国の健康政策の理解と健康政策立案の基本的能力を習得する。
- (4) 世界と日本の健康に関する現状を理解することができる。
- (5) 健康増進・抗加齢に関する生理学的知識を習得することができる。
- (6) 健康増進に効果的な運動の実施法について理解することができる。
- (7) 健康基礎理論を用いて看護の場におけるヘルスプロモーションを試行することができる。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	健康とその意義
第 2 週	健康観の変遷
第 3 週	ウェルネス理念の起こりと歴史的変遷
第 4 週	WHO のヘルスプロモーション・ムーブメント
第 5 週	健康政策の評価の視点と活用
第 6 週	健康政策立案の基本と地域づくり
第 7 週	沖縄県における健康問題の現状－長野県との比較から－
第 8 週	生理学からみた QOL
第 9 週	身体活動における生理学的メカニズムについて
第 10 週	生活習慣病予防と運動実践について
第 11 週	人間の保健行動と特性<個・集団・地域>
第 12 週	行動変容をサポートする健康教育，保健指導<個人・集団・地域>
第 13 週	健康教育とポピュレーションアプローチ
第 14 週	QOL 向上を目指したプリシード・プロシードモデルによる地域・行政活動
第 15 週	生活習慣病予防と医療費適正化－糖尿病を事例に考究する－

4. テキスト：健康行動と健康教育－理論，研究，実践－，医学書院 4200 円
 中原凱文ほか 健康科学としての運動生理学 文化書房博文社 2100 円
 監訳高野順子他 ヘルスプロモーション実践の変革－新たな看護実践に挑む 日本看護協会出版会 4800 円
 参考文献：身体活動の健康心理学，スチュワート J.H.ピドル，ナネット・ムツリ著，大修館書店
 ケースメソッドで学ぶヘルスプロモーションの政策開発－政策化・施策化のセンスと技術－，石井敏弘，他編，ライフ・サイエンス・センター，3,900 円

5. 準備学習：十分な予習と復習を行うこと。

6. 成績評価の方法：

- ・事前の資料準備と授業への参画度
(評価視点：授業へのコミットメント，問題発見および解決への努力，プレゼンテーションの適切さ)
- ・終了レポートの内容
(評価視点：テーマとの整合性，論理的な文章構成，言語表現の適切さ，文献活用の適切さ)
- ・合計

7. 履修の条件：特になし

8. その他：

科目名	包括的健康アセスメント			担当教員：○永田美和子 大城凌子 鈴木啓子	
科目名(英語)	Comprehensive Health Assessment			藤内美保	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	前期	2～3	研 610 (永田) 看研 1 (大城) 看研 17 (鈴木)	

1. 授業の概要：

看護モデルを基盤として身体・心理・社会的側面を包括的にとらえる高度なアセスメント能力を養う。身体面としてのフィジカル・アセスメント(Physical Assessment)強化を中心に、心理社会面として心理社会的アセスメント(MSE: Mental Status Examination)，看護診断を統合した講義によって習得する。

2. 到達目標：

- ① 身体面としてのフィジカル・アセスメントについて理解できる。
- ② 心理社会的アセスメントについて理解できる。
- ③ 病態生理学と看護診断を統合した包括的健康アセスメントについて理解できる。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	オリエンテーション	ヘルスアセスメントの概念	(藤内美保)
第 2 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本①	(藤内美保)
第 3 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本②	(藤内美保)
第 4 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本③	(藤内美保)
第 5 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本④	(藤内美保)
第 6 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本⑤	(藤内美保)
第 7 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本⑥	(藤内美保)
第 8 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本⑦	(藤内美保)
第 9 週	心理社会的アセスメントの基本①		(鈴木啓子)
第 10 週	心理社会的アセスメントの基本②		(鈴木啓子)
第 11 週	シュミレーターを用いた演習		(大城、永田)
第 12 週	臨地における実践的ヘルスアセスメント①		(永田、大城)
第 13 週	臨地における実践的ヘルスアセスメント②		(永田、大城)
第 14 週	臨地における実践的ヘルスアセスメント③		(永田、大城)
第 15 週	まとめ		(永田、大城)

3. テキスト：1. Lynn S Bickley 著：メディカル・サイエンス・インターナショナルのベイツ診察法

Bates Guide to Physical Examination and History taking 9th Edition

2. 藤崎郁 (2012) フィジカルアセスメント完全ガイド 学研

参考文献：

1. 野末聖香著 (2004) 「リエゾン精神看護—患者ケアとナース支援のために」 医歯薬出版株式会社
2. G.W.Start et.al(2005)Principles Practice of Psychiatric Nursing 8th edition ,MOSBY
(安保寛明・宮本有紀監訳「看護学名著シリーズ—精神看護—原理と実践」原著第8版)
3. 森山美知子編集「ファミリーナーシングプラクティス」医学書院
4. 古屋伸之 (2007) 診察と手技がみえる Vol 1 Medic Media
5. 花田妙子他 (1998) ヘルス・フィジカルアセスメント 上巻 日総研

5. 準備学習：

事前に掲示した資料に基づいた準備をして授業や演習に臨むこと。

6. 成績評価の方法：

- ・活動状況 50 点 (授業へのコミットメント、課題解決への努力、プレゼンテーションの適切さ)
- レポートの内容 50 点 (臨地における実践的ヘルスアセスメントレポート)
- ・合 計 100 点満点

7. 履修の条件： 特になし

8. その他：学外での臨地演習も含むため、履修可能な条件を整えること

科目名	健康栄養学			担当教員：奥本 正	
科目名(英語)					
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2~3	人 208	木 5

1. 授業の概要：

日本人の現在の栄養摂取量，食生活，食習慣の現状とわが国の栄養摂取基準等を理解する。また，根拠に基づいた栄養学の考え方を知り，肥満や高血圧，骨折など身近なテーマを取り上げ，そのテーマの根拠を探し，その根拠を批判的に分析できる能力を高めるような授業を展開する。

2. 到達目標：

- ①日本人の栄養摂取，食生活，食習慣の問題点を指摘できる。
- ②現在のわが国の健康・栄養を知る。
- ③食品の分類とその表示について理解する。
- ④栄養食事アセスメントの方法を理解する。
- ⑤EBN の考え方を知る。
- ⑥資料を批判的に講読することができる。
- ⑦目的にあったレジюмеを作成することができる。
- ⑧文献レビューを適切に書くことができる。

3. 授業の計画と内容

- 第1週：日本人の栄養摂取量，食生活，食習慣の現状
- 第2週：食生活指針，食事バランスガイド，食事摂取基準
- 第3週：健康日本 21，身体活動の指針 2013
- 第4週：エネルギー消費，身体活動量の測定
- 第5週：食品表示
- 第6週：栄養食事アセスメント
- 第7週：EBN を知る（1）EBN とは何か？
- 第8週：EBN を知る（2）栄養・健康情報と EBN
- 第9週：EBN の実例を知る 1 コレステロールと寿命の関係
- 第10週：EBN の実例を知る 2 骨折を骨粗鬆症
- 第11週：EBN の実例を知る 3 食塩と高血圧
- 第12週：EBN の実例を知る 4 肥満と食行動
- 第13週：EBN の実例を知る 5 朝食の健康影響
- 第14週：EBN の実例を知る 6 ダイエット
- 第15週：健康情報リテラシー

4. テキスト：

わかりやすい EBN と栄養疫学，佐々木敏，同文書院

参考文献：

栄養データはこう読む！，佐々木敏，女子栄養大学出版部
 ここがおかしい日本人の栄養の常識，柴田博，技術評論社
 栄養学雑誌，日本栄養食糧学会誌，**Journal of Nutritional Science and Vitaminology**
 AmJ Clin Nutrition, J Clin Nutrition, J Nutrition 等栄養学関連の雑誌，疫学分野の雑誌

5. 準備学習：

後半の講義は，教科書のデータ読み取り，原著論文の講読を行い，レジюме作成を行い，授業に臨む。そのためには原書論文の検索法と文献の準備が必要となる。また，身体活動量の測定の課題を実施してから授業に臨む。

6. 成績評価の方法：

事前の資料準備と授業への参画度 50 点，レポート 2 回（40 点），課題 10 点

7. 履修の条件： 特になし

8. その他：

科目名	病態生理学			担当教員：砂川 昌範	
科目名(英語)	Pathophysiology				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	3	407	火・木 16:30-17:30

1. 授業の概要：
この授業では、臨床医学で頻回に遭遇する疾病を教材として、病態を生理学的アプローチから理解し、治療について学ぶ。

2. 到達目標：
臨床看護で指導的役割を担える人材を育成することを目標にする。
1) 自ら論理的に病態を理解・学習できる知識基盤を構築する。
2) 病態に関する正しい情報を患者やその家族に説明し、最適な判断の手助けとなれる人材。
3) 健康障害があっても、その影響を最小限にする際の専門的判断の知識基盤を構築する。

3. 授業の計画と内容

第1回	病態生理学の概要	砂川昌範
第2回	恒常性維持	砂川昌範
第3回	体液と電解質バランスの破綻1	砂川昌範
第4回	体液と電解質バランスの破綻2	砂川昌範
第5回	循環器系の疾患1	砂川昌範
第6回	循環器系の疾患2	砂川昌範
第7回	循環器系の疾患3	砂川昌範
第8回	循環器系の疾患4	砂川昌範
第9回	呼吸器系の疾患1	砂川昌範
第10回	呼吸器系の疾患2	砂川昌範
第11回	血液系の疾患1	非常勤講師 中村真理子 (琉球大学医学研究科)
第12回	血液系の疾患2	非常勤講師 中村真理子 (琉球大学医学研究科)
第13回	症例提示 (ケースレポート) 1	砂川昌範
第14回	症例提示 (ケースレポート) 2	砂川昌範
第15回	症例提示 (ケースレポート) 3	砂川昌範

4. テキスト・参考文献
①人体機能生理学：杉晴夫，等(共著)，南江堂(第4版)，2004年
②標準生理学：本郷利憲，等(監修)，医学書院(第6版)，2005年
③からだの異常 病態生理学I，II，III：北本清，等(共著)，日本看護協会出版会，2003年
④疾病の成り立ちと回復の促進(第3巻，第4巻) 疾病各論：下 正宗(編)，医学書院，2006年
⑤Physiology and Pathophysiology of the heart (Third edition), Nicholas Sperelakis, Kluwer Academic Publishers (KAP), 1995
⑥Textbook of Medical Physiology, Guyton & Hall, 2006
⑦Clinical 生体機能学—生理学から症状がわかる—：當瀬規嗣，南山堂，2005
⑧Pathophysiology: The biologic basis for disease in adults and children. Kathryn L McCance & Sue E. Huether, Mosby 1997

5. 準備学習：講義タイトルに関連する論文を1編読んできてレポートすること。

6. 成績評価の方法：授業への討議の参加，レポート，試験により総合的に評価する。

・事前の資料準備と授業への参画度	20点
・レポート内容	20点
・ケースレポート発表	20点
・試験	40点
・合計	100点満点

7. 履修の条件：3分の2以上の講義出席をもって期末試験を受験できるものとする。

8. その他

科目名	英語講読			担当教員： 渡慶次 正則	
科目名(英語)	Reading English Texts				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	5~6	512	講義の前後 30 分ずつ

1. 授業の概要

英文で書かれた看護の専門誌・論文を講読する力を養うことを目的とする。そのために、一般の新聞、雑誌を読みながら、文法の解説も加えて基礎読解力を高めたうえで、専門誌の看護の英語論文を講読する。

2. 到達目標

新聞、雑誌を辞書なしで読み、おおまかな意味をつかむことができる。

看護の専門雑誌を辞書などを利用して読み、正確な意味をつかむことができる。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	医療に関連した一般的な記事の講読	The Japan times 等
第 2 週	医療に関連した一般的な記事の講読	The Japan times 等
第 3 週	医療に関連した一般的な記事の講読	The Japan times 等
第 4 週	医療に関連した一般的な記事の講読	The Japan times 等
第 5 週	医療に関連した一般的な記事の講読	The Japan times 等
第 6 週	看護の専門文献の講読	American Journal of Nursing 等
第 7 週	看護の専門文献の講読	American Journal of Nursing 等
第 8 週	看護の専門文献の講読	American Journal of Nursing 等
第 9 週	看護の専門文献の講読	International Council of Nurses 等
第 10 週	看護の専門文献の講読	International Council of Nurses 等
第 11 週	看護の専門文献の講読	International Council of Nurses 等
第 12 週	論文の抄録・本文の構成について	
第 13 週	論文の抄録・本文の構成について	
第 14 週	英語論文作成について	
第 15 週	英語論文作成について	

4. テキスト・参考文献

「看護英語読解 15 のポイント」園城寺康子他，メジカルビュー社

5. 準備学習：次回の課題として与えられた文献を読んで、予習をして授業に臨むこと。

6. 成績評価の方法

授業中の貢献度	50 点
レポート	50 点
合計 100 点満点	

7. 履修の条件： 特になし

8. その他： 英語の読解力を高めるには、とにかく多くの英語の文章を読むことである。文法についても、しっかり確認しながら正確に英文を読むこと。